

第12回

「議論の十字路、百万遍」

# 百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。

あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近ではコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっていっています。

そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。

毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んでおくこと、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。気軽な気持ちで参加してください。

いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

話題提供者 沼田 英治 (人と社会の未来研究院 特定教授)

テーマ 幸せってなんだろう？

テキスト 「一昆虫学者の見たペレストロイカ【「ボルスクラ川の森」編】」

今回は上記のテーマについて、ともに考えてみたいと思います。

テキストは、下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

主催：京都大学 学術研究展開センター (KURA)

場所：附属図書館3階共同研究室5

対象：京都大学学部学生（正規生）先着10名

使用言語：日本語 | 費用：無料

申込方法：右記QRコードよりお申し込みください

<https://forms.gle/dZCwdnXgGw3FVEJx9>



[お問い合わせ]

京都大学 学術研究展開センター(KURA)

「百万遍談議」担当

[jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp](mailto:jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp)

★これまでの開催記録はこちら

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/gakusai/dangi/>



京都大学



2023.12.23 [SAT.]

15:30—17:00

2023年12月23日  
百万遍談議 開催報告

## 第12回 幸せってなんだろう？

話題提供者

沼田 英治 人と社会の未来研究院 特定教授

参加者：5名

[内訳]

11回生1名（農学）

2回生2名（農学）

3回生1名（法学）

4回生1名（法学）

### 談議メモ

第10回に引き続き、話題提供者がソ連崩壊の前年にあたる1990年に同地に滞在した体験を綴った使用テキストをもとに談議を開始。現・ウクライナとの国境近くにある自然豊かなベルゴロド州の実験所では、経済的苦境にありながらも人びとが研究や教育を行い、幸せそうに暮らしていた様子から、当時の共産主義の是非をめぐる話題に終始議論が集中しました。

とくに、ソ連時代には総合大学の存在が国家の威光に直結していたことから、現代に比して科学者が尊敬され、女性の経済的自立を大前提とする共産主義下にあっては研究者の男女比も平等であり、高等教育はすべて無償（それだけでなく学生に給料まで支払われていた）であったことを踏まえ、大学の役割についてさまざまな意見が交わされました。

現在の日本の大学については「就職のための予備校になってしまっているのが問題だ」「短大は就職のための教育に特化するなど、大学にはいろいろな役割があっていい」「大学では遊んでも何をして、一個人が有する『権利』として一律無償化としてもよいのでは」「国家の政策に必要な学問（医学、工学など）を学ぶための学費は無償でもよいのでは」といった声も聞かれました。

今回のテーマ「幸せってなんだろう？」に関しては、終盤に使用テキストの時代背景として描かれていたバブル期の日本の風潮——「24時間戦えますか」——を振り返りつつ、じっくり思考をめぐらせる場面も。「ずっと働き続けるのは嫌だが、何もしないことへの不安もある」「幸福観は国や時代の空気によっても異なるのでは」など、それぞれが自分の立場で考え、互いの声に静かに耳を傾ける中で幕を閉じた回となりました。